

会員の声

補強土工法の設計システム

(株) エフ・ケー・シー 情報システム部 三次 英武

1. 補強土工法との出会い

2004年4月、土木分野に特化した情報システム会社である株式会社エフ・ケー・シーに入社し、最初に手掛けた業務が『ジオテキスタイル補強土工法設計システム』の開発でした。大学では土木工学を専攻したものの、当時の私は補強土工法の知識が足りないだけでなく、プログラミングの知識もほぼ持ち合わせていない為、日々、補強土工法とプログラミングについて学んでいました。そのような時期から、ジオテキスタイル補強土工法普及委員会に出席させて頂き、補強土工法について学べたことは幸運な事だと感じています。

2. 設計システムの開発に携わって

『ジオテキスタイル補強土工法設計システム』の開発に携わるなか、一般財団法人土木研究センターによるシステム開発研究会の発足に伴い、『多数アンカー式補強土壁工法設計システム』および『補強土（テールアルメ）壁工法設計システム』の開発を手掛けることとなりました。この3工法の設計システムの開発に携わることにより、各工法の相違点を理解するだけでなく、長所および短所を多少なりとも理解することによって、補強土工法についての知識が深まったと思います。

ジオテキスタイルについては、マニュアル改訂の委員会にも参加させて頂くことにより、設計システムに改訂内容を逸早く組み込むことが出来ました。また、マニュアル改訂の講習会に設計システムの講師として参加させて頂いたことは、自分にとって大変価値のある経験になったと思います。

3. 設計システムの役割

現在の設計業務において、設計システムは必要なツールとなっています。私は、設計業務における経験の浅い方が使用しても、正しい結果に導くことが出来るとともに、使い続けることにより補強土工法について学んでいけるシステムを開発し、設計システムを「計算を行う」「業務の効率化を図る」だけのツールではなく、「設計・施工マニュアルの内容を理解することが出来る」ツールにしていきたいと考えています。

また、設計・施工マニュアルの内容を浸透させ、補強土工法の一層の普及を図ることが、設計システムの役割の一つであるとも考えています。

今後も自身の知識を深めていくとともに、設計システムを通して補強土工法に貢献できるよう努めてまいりたいと思います。